

地域の人々とともに

～産学地連携による米づくり体験～

教科・領域 総合的な学習の時間

光市立岩田小学校5学年

キャリア教育の観点

この取組みは、田起こし、稲の播種から育苗、田植え、除草、刈り取り、脱穀までの6ヶ月近くの期間、地域の人や企業の人との協力を得て農作業に従事することにより、協力して働くことや、稲を育てる成就感を味わう活動です。

【人間関係形成・社会形成能力】【自己理解・自己管理能力】

年間計画

活 動	日 時	協 力 者	活 動 内 容
田 起 こ し	5月15日 (火)	寿クラブ5名 地元企業社員	レンゲ、雑草の刈り取り トラクターによる荒耕作業体験
播 種	5月21日 (火)	寿クラブ3名 地元企業社員	育苗箱に培土を入れ、もみ蒔き発芽、育苗の 観察体験
プール出し	5月27日 (月)	寿クラブ3名 地元企業社員	5cmに育った苗を簡易プールに移し育苗
田 植 え	6月11日 (火)	寿クラブ10名 地元企業社員	育苗箱の苗を現地まで運搬、体験田は手植え、 乗用田植機体験
中 間 除 草	7月22日 (月)	寿クラブ10名	稲と雑草の生長を観察視、稲と稗の相違を体 験する。
稲 刈 り	9月24日 (火)	寿クラブ10名 地元企業社員	鋸鎌による手狩り体験、ハゼ掛け作業体験、 機械狩り体験
脱 穀	10月4日 (金)	寿クラブ5名 地元企業社員	ハゼ掛けの稲の脱稿作業体験

オプション体験

どろんこ会	6月7日 (金)	寿クラブ10名	6年生と合同での田植え前の田んぼでのゲー ムや遊び
田んぼアート 田植え	6月19日 (月)	寿クラブ5名 地元企業社員	長州ファイブアートを描いた田んぼへの田植 え体験
田んぼアート 稲刈り	10月14日 (月)	寿クラブ5名 地元企業社員	長州ファイブアートを描いた田んぼの稲刈り 体験

産学連携について

本校の米づくり体験には、地域の方のご厚意で借りている田で行っている。米づくりに関する様々な指導を岩田地区老人会（寿クラブ）の有志の方々の協力が不可欠なものが、米づくり以外の学校の諸行事に参加・協力を仰いでいる。

そこに加え（株）地元企業が推進するプロジェクトの一貫として米づくり体験活動をバックアップしていただいているところである。

地元企業のプロジェクトについて

【基本理念】ステークホルダーの理解と協力を得ながら持続可能な社会づくりのための社会貢献活動もまた大切な企業活動である。

【目的】「食料」「水」「環境」は、人類の生存にとって不可欠であり、これらの分野が抱える様々な課題解決を目的とした社会貢献活動である。

【視点】6視点の内、education(教育・農育・水育)に相応する。

【テーマ】農業、水・環境、環境・市民・協賛の5テーマの内、農業の項目に『クボタ元気農業体験教室』、環境の項目に『草刈りボランティア活動』が含まれている。



まず、たんぼづくり、田起こしの作業です。雑草を刈りレンゲなどを土に鋤込みました。



田植えです。筋引きをした田に苗をどのように植えるか。諸々の注意を聞いています。



まずは、手植え体験、筋引きしている田に苗を植えていきます。



乗用の田植機の体験、地元企業の方が親切に指導していただきます。



猛暑の夏、雑草取りに汗を流します。寿クラブの方に、稲と稗の違いを教わります。

収穫の秋を迎え、稲刈り、ハゼ掛け乾燥、脱穀作業を経て終了です。



体験活動と教科の関連について

農業体験を通して児童は、社会科の内容日本の農業について学習する。非農家の割合の高い本校児童にとっては教科理解に繋がる活動といえる。

また、およそ6ヶ月間にわたる体験活動をまとめ、「ふれあい参観日」において保護者や地域の人たちに対し、児童一人ひとりが発表の機会をもつ。表現力の育成が求められる。

そして、年を越すと地域の人々や企業の人たちを招待し、収穫したお米を使って手作りの感謝会を開催する。まさにキャリア教育の大きな観点【人間関係形成・社会形成能力】を培うものといえる。そして活動を通して友達との協力や6ヶ月間の米づくりの成就感なども児童にとっては貴重な体験と言えるであろう。

課題と今後の展望について

Growing(育てる)が農業であり、農業は、命の糧のみならず心の糧とも言える。また、縄文時代より先人が連綿と維持管理してきた財産とも言える。キャリア教育の一環として児童たちが農業を体験することは、我国の伝統、文化を知るだけでなく、ふるさと資源の再発見にも繋がるものと思う。今後は、環境教育の一環としても農業体験を推し進めていきたい。例えば、稲が育つためにどれほど多くの生物が関わっているのかという視点は食物連鎖や生物の連鎖など、理科の学習にも大いに役立つ。年度ごとに振り返りを確実なものにしてさらに米づくり体験活動の充実に努めていきたい。